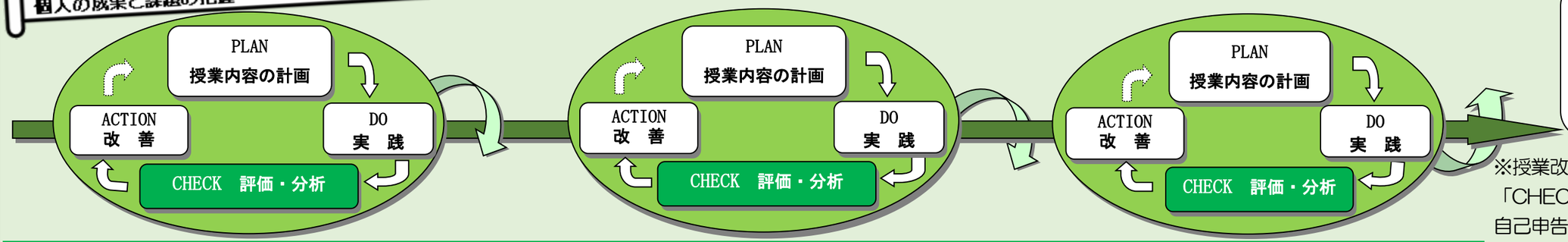
「町田市スタンダード授業改善シート」を活用した授業改善の PDCA サイクルの確立

～授業改善 PDCA サイクルを確立し、授業力向上を図る～

８つのデザイン・特別支援教育との関連
学校の傾向の把握
個人の成果と課題の把握



授業力向上が児童・生徒の学力向上・体力向上につながる。

※授業改善 PDCA サイクルにおける「CHECK 評価・分析」は、年に３回、自己申告時に行うと効果的である。

４月　５月　自己申告　６月　１０月　自己申告　１１月　２月　自己申告　３月

「町田市スタンダード授業改善シート」

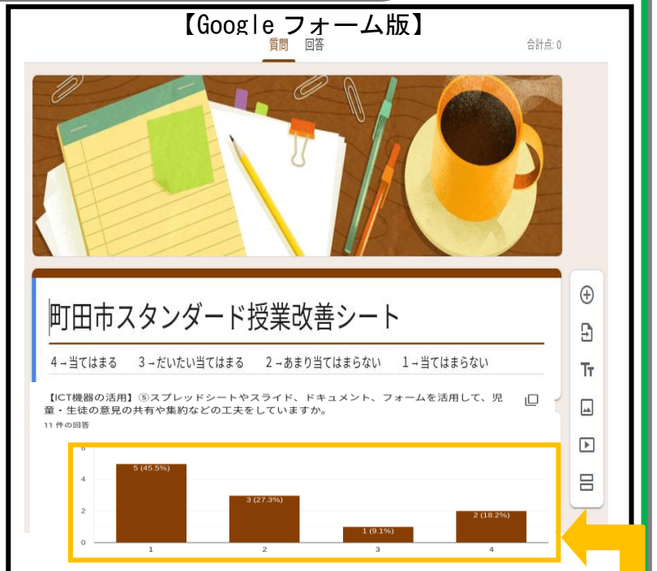
【Excel 版】

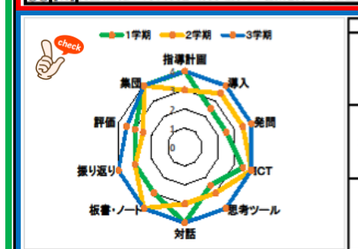
町田市スタンダード授業改善シート

*1「町田市　特別支援教育ハンドブック」授業振り返りシートの項目との関連　　氏名（　　）

特支*1		授業をデザインする8つの取組と関連した授業改善の視点	当てはまる	だいたい当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
	1	単元全体を見通した指導計画				
⑰	【1】	単元や題材の学習を通して、児童(生徒)に身に付けさせる力を明確にした指導計画を作成している。	4	3	2	1
	【2】	個に応じた支援について、あらかじめ検討・準備している。	4	3	2	1
	2	見通しをもたせる導入				
⑨	【3】	一単位時間(本時)のねらいを明確に示している。	4	3	2	1
⑩	【4】	児童(生徒)の興味・関心を高め、主体的な学習を促している。	4	3	2	1
	3	発問の工夫				
⑯	【5】	児童(生徒)の好奇心や学習意欲を促すために発問を工夫している。	4	3	2	1
	【6】	児童(生徒)の考えを引き出し、思考を広げるために発問を工夫している。	4	3	2	1
	4	ICT機器の活用				
	【7】	児童(生徒)の円滑な学習を促すためにパワーポイントやスライドなどの視覚的な資料を作成している。	4	3	2	1
	【8】	スプレッドシートやスライド、ドキュメント、フォームを活用して、児童(生徒)の意見の共有や集約をしている。	4	3	2	1
	5	思考ツールの活用				
⑯	【9】	児童(生徒)の考えを分類、統合、比較、検討し、整理したり関連付けたりしている。	4	3	2	1
	【10】	課題解決に向けて、児童(生徒)に多面的・多角的に考えさせている。	4	3	2	1
	6	価値ある対話の共有				
⑯	【11】	目的やテーマを明確にして、話合いをさせている。	4	3	2	1
	【12】	児童(生徒)が自分たちで考えたことをまとめたり、解決したりする場面を設定している。	4	3	2	1
	7	構造的な板書とノート指導				
⑬	【13】	一単位時間の学習内容が明確で、児童(生徒)の思考を広げたり深めたりするために板書を工夫している。	4	3	2	1
	8	振り返りの設定				
㉑	【14】	児童(生徒)が「学習のめあて」の達成について、振り返る場面を設定している。	4	3	2	1
	【15】	児童(生徒)に次時の学習の見通しをもたせている。	4	3	2	1
	9	授業改善に生かす評価				
⑮	【16】	児童(生徒)の資質能力を育むために、単元や題材の学習を通して「いつ」「何を」「どのように」評価するかを明確にしている。	4			1
	【17】	個の学習状況を把握し、その場で支援したり、次時の授業を改善したりしている。	4	3		
	10	認め合う・学び合う集団の形成				
⑲⑳㉒	【18】	児童(生徒)に対し、受容・称賛・励ましの言葉を掛けて、価値付けをしている。	4	3	2	1

【Google フォーム版】





	成果と課題
1学期	
2学期	
3学期	

【町田市スタンダード授業改善シートの特徴】

1．授業をデザインする８つの取組を基に「町田市　特別支援教育ハンドブック」との関連を図った質問項目を設定

2．【Excel 版】では、個人の成果と課題がレーダーチャートによって把握が可能

3．【Google フォーム版】では、各項目のグラフ化によって、学校の傾向の把握が可能

学校・管理職

★１　町田市授業スタンダード〈授業をデザインする８つの取組を基にした基本的指導過程〉を基に学校でオリジナルの学校スタンダードを創る。
（〇〇小・〇〇中オリジナルスタンダード）

★２　町田市スタンダード授業改善シート【Google フォーム版】を活用して、学校の実態及び個人の実態の把握をする。（年間３回の自己申告時など）

★３　自己申告で教員に具体的に達成目標を立てさせる。

★４　自己申告時の面接等で指導・助言する。

★５　組織的に授業実践し、PDCA サイクル化を図る。

教　員

☆１　授業をデザインする８つの取組及び実践事例集を基に日々の授業実践に取り組む。

☆２　町田市スタンダード授業改善シート【Excel 版】を活用して自己評価を行い、達成状況を把握する。
（年間３回の自己申告時など）

☆３　年度末には自己の到達度を把握し、次年度につなげる。